

各種教室・会議室

スクリーンを含むビジュアル機器の新たな導入スタイル。「最先端」に相応しい教室・会議室を提案します。際立つインテリアに、感性で応えるスクリーンの導入。デザインに優れたスクリーンを、さらに「空間をデザイン」パソコンとスクリーンの組合せにより、教材や資料が大型映像化されることで、効果的に活用されています。



東京モード学園・HAL東京・首都医校 モード学園コクーンタワー(東京都新宿区)

テーマ課題

～授業にスクリーンを活用したくなる存在感～

従来のスクリーンは、天井部分に収納していて、必要ときにセットアップするのが一般的ですが、ケースデザインにこだわったグランヴェュー-GSRと新方式の壁取付金具をセットにすることで、魅せるスクリーンへと変身。

天井埋め込みボックスや天井工事が不要になるので、コストや工期の軽減にもなりました。

- 黒板の上の壁に設置し、黒板のチョークトレイをかわして使用できるようにしました。
- スクリーン収納時も、教室のイメージを損なわないようなケースデザインと斬新な取付方法にこだわりました。
- 各教室から大ホールまで約200台のスクリーンを設置しました。

S O L U T I O N

」するようインストールしました。



商品名:GSR(80・100インチ手動スクリーン)他

「教室用スクリーン」

設置場所を選ばない洗練されたケースデザイン。
高品位でありながらベストプライスなグランヴェージュシリーズ。
フリーストップ機構で止めたい位置に調節が可能です。
ゆるやかに巻き上がってケースに収まるスローアップ機構を搭載しています。

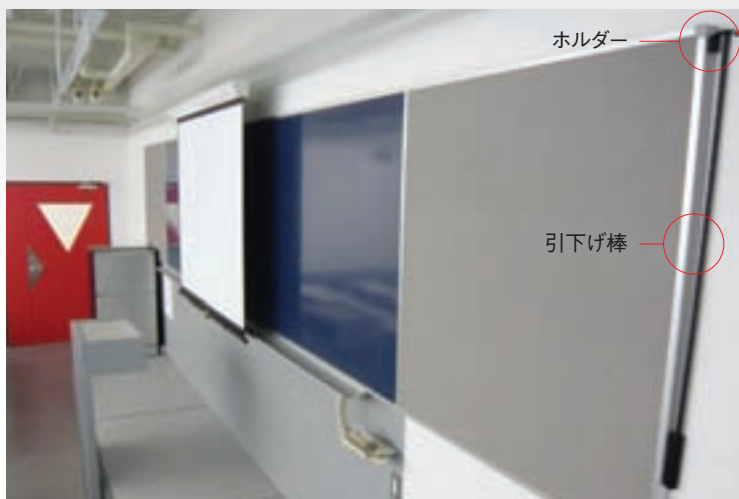
商品名:フローティングマウントブラケット FMB-1

「壁せり出し用金具」

フローティングマウントブラケットを使い取り付けすることで、
スクリーンが宙に浮いたような設置が可能。多くの人の注目を集めます。
壁の中のスタッドに対して付属の中空壁用アンカーを使用して固定させました。

詳細ページ → P23 / 37

各種教室・会議室の導入事例



ホルダー

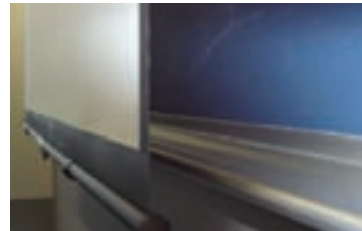
引下げ棒

置き場に困る引下げ棒もオプションのホルダーですっきり。

[フローティングマウントブラケット]



詳細ページ → P37



新方式の壁取付金具で黒板のチョークトレイをかわして設置。



天井にかくれていたスクリーンを魅せるスクリーンに。



各種教室・会議室

各種教室及び会議場における大画面での映像表現は、「説得力・理解力」を高める効果があります。



東京工科大学 八王子キャンパス(東京都八王子市)

テーマ課題

背面投射型スクリーンでアクリル板を使ったものの限界サイズは、原盤の最大サイズ(7000×2743mm)まで。それ以上のサイズは軟式のスクリーンを使用するしかありませんでした。

キクチは、複数のアクリル板を特殊な技術でつないで、その上からスクリーン生地をラッピングすることで、今まで限界とされていたサイズを大幅に超える商品を製作できるようになりました。

- スクリーンの背面暗室から映像を投射するリアタイプスクリーンは、室内の照明を落とさなくても映像再現ができるので、視聴しながら読み書きなどの作業もできる環境を作り上げます。
- 硬質タイプのスクリーンは、大型になると空調の風や、気密性の高い部屋でのドアの開閉などに影響を受けやすい軟質タイプ生地の弱点を克服します。
- 横幅が広いスペースで、端にいくほど映像が暗くなり見えづらくなる問題も、拡散性に優れた広い視野角に対応するスクリーン生地を用いることで解決。キクチではさまざまな環境、用途に対応するスクリーンバリエーションを取り揃えています。

各種教室・会議室の導入事例

慶應義塾大学 グローバルスタジオ(東京都港区)



詳細ページ → P56

Stewart/電動300インチ(16:9)スクリーン(ホワイトケース)
有効画面寸法W6641mm×H3735mm

株式会社 ルミネ 本社 会議室(東京都渋谷区)



詳細ページ → P32

TEO/電動100インチ(4:3)ダブルワイド横2面スクリーン TGE
有効画面寸法W4064mm×H1524mm

2台のプロジェクターを活用した電動巻き上げタイプのマルチスクリーン*。
多人数での会議・プレゼンテーションやダイナミックな映像演出に最適。
使用する際以外はスクリーンを収納することで空間のイメージも損ないません。

*マルチスクリーンについてはP42参照



商品名:Stewart リア・ハードスクリーン

「リア・スクリーン」

～照明下でも鮮明映像。幅広い用途に対応～

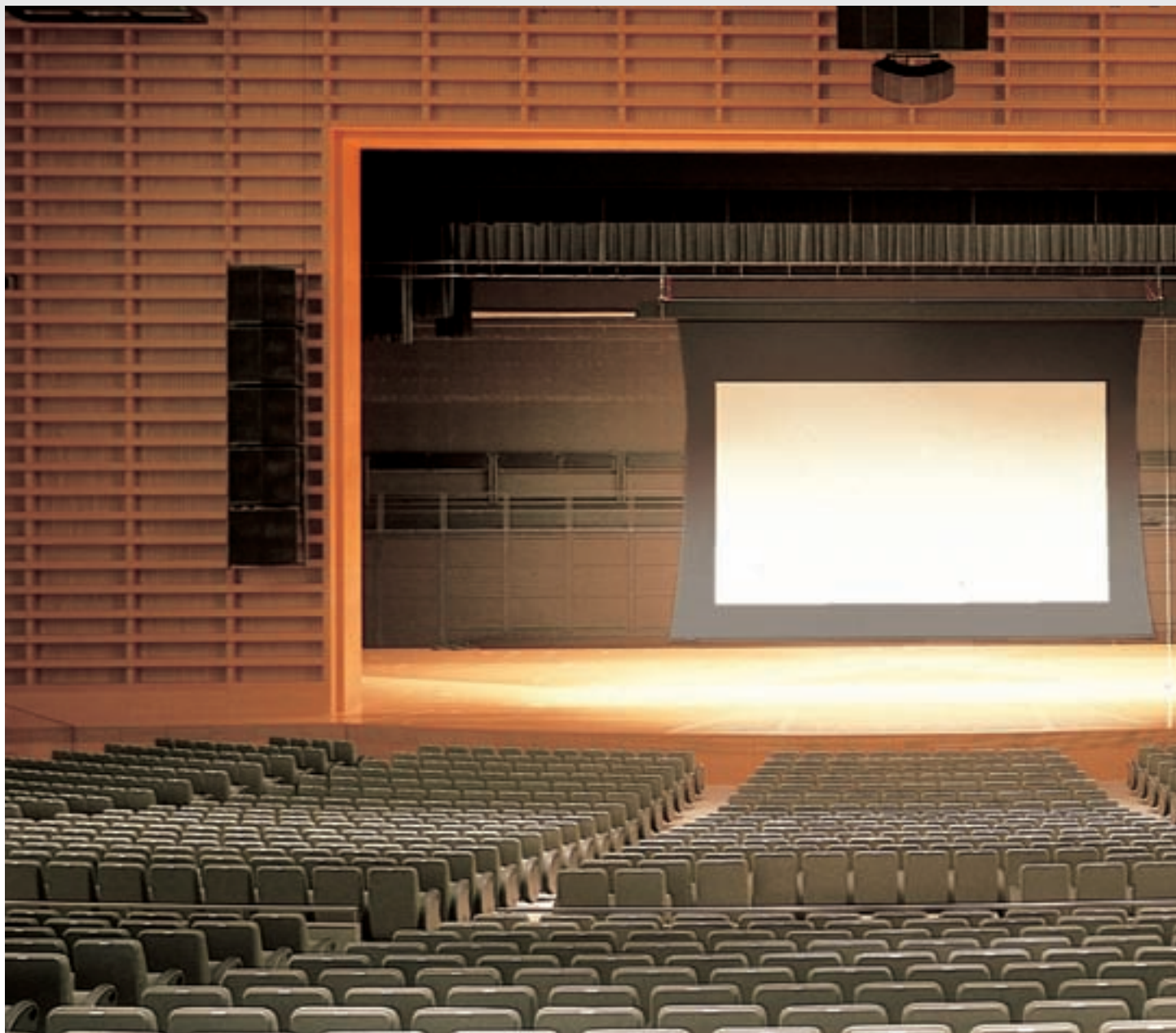
プロジェクターをスクリーンの背面に設置し、そこから映像を投影するため、外光の影響を受けにくく照明下でも鮮明映像を可能にします。スクリーンの前に立っても映像が遮断されないため、学校では映像教育ツールとして、またビジネスでは効果的なプレゼンテーションツールとして、展示会などでも斬新な映像空間を実現するなど幅広く応用できます。

Stewartのリア用のスクリーン生地は、スクリーン生地の継ぎ目なしで最大W27m×12mのサイズを可能としており、それをアクリル等にラミネート加工したハードタイプのスクリーンは、アクリルベースで最大W7000mm×H2743mm(原盤の最大サイズ)まで製作することができます。それ以上のサイズを要する場合は、設置現場で複数のアクリル板を接着して、スクリーン生地をラッピングする方法で対応できます。
(この方法を用いれば搬入路に制約がある場所にも大型スクリーンの設置が可能です。)

詳細ページ → P64

ホール・講堂

大型スクリーンや大音響のサラウンドシステムは、あたかもそこにいるような臨場感とその映像の中に入り込んだような没入感を得られる効果があります。



東京国際フォーラム ホールA(東京都千代田区)

テーマ課題

舞台前端部に400HD電動巻き上げリアスクリーンを設置。
スチュワートならさらに大きなリアスクリーンの巻き上げも可能です。

- 東京国際フォーラムで最大収容人数を誇るAホールに超大型スクリーン(400インチ 16:9 W8854×H4980mm)を設置。
- プロジェクター設置場所からスクリーンまでの距離の関係で、フロントタイプ(スクリーン前面から投射)のスクリーンではなくリアタイプ(スクリーン背面から投射)のスクリーンを選択。
- 背面から投射できる距離が得られるようステージ最前列のバトンに吊り下げ、不要な時には簡単に撤去できるようカスタムタイプの電動スクリーンを設計。

ホール・講堂の導入事例

東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール(東京都中央区)



詳細ページ → P57

Stewart/鳩目張り込みシアタースクリーン(サウンド加工)

有効画面寸法W9700×H4600mm

フィルムセンターは、国立近代美術館の映画部門(フィルム・ライブラリー)として開設されました。サウンドスクリーンは、幕面に細かい穴を開けることにより、高音域の減衰や振動を抑え、映像と音の一体感が得られます。

東京モード学園・HAL東京・首都医校

モード学園 コクーンホール Bホール (東京都新宿区)



詳細ページ → P45

鳩目張り込み300インチスクリーン(塗装加工)

有効画面寸法W6096×H4572

角度ある位置からの視聴でも映像の明るさに差がないホワイトマット仕様。生地をつなぎ目部分を塗装加工することでシームレスのような表面にしました。



商品名:Stewart電動スクリーン(バトン吊りリアスクリーン)400インチ

「スチュワート・スクリーン」

～様々なニーズに応える技術と多種多様なスクリーン～

Stewart社では、スクリーン生地の継ぎ目なしで最大W27m×H12mのサイズを可能としています。電動スクリーンにおいては、下部ウエイトバーのテンションで横シワを、両サイドのタブテンションでスクリーンのカーリングを防ぐ独自の機構で優れた平面性を実現。使用目的と環境に適したスクリーン生地をお選びいただけます。背面投射型(リア)スクリーンは、本来巻き上げが不可能とされていましたが、Stewart社のリアスクリーンは長時間巻き上げた状態でも融着(ベタツキ)の起きにくい素材を採用しているため、より長期間使用していただくことができます。

詳細ページ → P56

イベント・コンサート

イベントやコンサートにおけるライブ映像は、演出効果を高めたり、空間に一体感を生み出します。



東京ドーム(東京都文京区)

テーマ課題

大型400インチスクリーン2台を3日間のコンサートで使用。
終了後すぐに撤収して、同じスクリーンを別会場に移動して再び設営します。

- 会場に400インチの大型スクリーンを2台設営。前日まで別のイベントが催されていたので、わずかな時間で設営することが求められました。スタンフルのスクリーンシステムならイベント終了後に設備を短時間で撤収し、次のコンサート会場まで移動できます。
- 会場のレイアウトが違うので別々の設営方法を実施。
 - ①スタンドにスクリーンを立てて使う(専用のスタンドを使用)、②天井からバトン等に吊って使う(64システムに付属のアイボルトを使用)、③会場によって、前面からプロジェクターを投射するか背面から投射する(フロントタイプとリアタイプが同じフレームで使用可能)、これら3つのケースで使い分けることに対応しました。



商品名:AV Stumpfl 可搬組立型スクリーン 400インチ

「スタンフル・スクリーン」

～簡易設置、機動性に優れたイベントに最適なスクリーン～

Stumpfl (スタンフル) 社の可搬組立型スクリーンは、イベントや展示会などで特殊な工具を用いずに組み立てが可能。使用しない時は専用のプラスチックケースに収納し、持ち運ぶことができます。高さの調節が可能な自立スタンドが付属するほか、吊り下げ設置用のアイボルトが、64システムには標準で付属します(32システムはオプション対応)。

スクリーン生地は、以下の3種類があります。

①ホワイトマット(前面投写用)②リアソフト(背面投写用)③メタルシルバー(立体映像/3D用)
NTSCサイズ(4:3)は90～400型まで。ハイビジョンサイズ(16:9)は、100～330型まで(※)と幅広いラインナップを取り揃えています。

※ヴァリオ64は、特注で470型(ハイビジョンサイズ16:9)まで製作できます(前面投写用)。

※メタルシルバーのサイズは、NTSCサイズ(4:3)が240型、ハイビジョンサイズ(16:9)が250型までとなります。

詳細ページ → P65



詳細ページ → P65

90型から400型の大型スクリーンを短時間でセッティングできます。

専用ケースにコンパクトに収納し、持ち運ぶことも可能です。

NTSCサイズ(4:3)、ハイビジョンサイズ(16:9)共に各種サイズを取り揃えています。

イベントや各種展示会などに適したモバイルスクリーンです。

スタンフル	型	製品特徴
モノブロック32	90～240	32×32mm角のアルミ製チューブを使用した折りたたみ式フレームシステム。
モノブロック64	180～360	64×32mm角のアルミ製チューブを使用した折りたたみ式大型映像用フレームシステム。
ヴァリオ64	250～400	幅64mmのアルミ製チューブを使用した差し込み連結式大型映像用フレームシステム。特注にも対応いたします。

フロントスクリーン		シルバースクリーン			リアスクリーン	
マテリアル	ホワイトマット(SW)	マテリアル	ファインシルバー(SL)240	ファインシルバー(SH)330	マテリアル	リアソフト(RSS)
ピークゲイン	0.98±10%	ピークゲイン	2.40±15%	3.30±15%	ピークゲイン	1.2±10%
半値角	85°	半値角	25°	15°	半値角	30°
1/3角	85°	1/3角	35°	25°	1/3角	50°



●特大スクリーンを工具なしで簡単に設置できます。

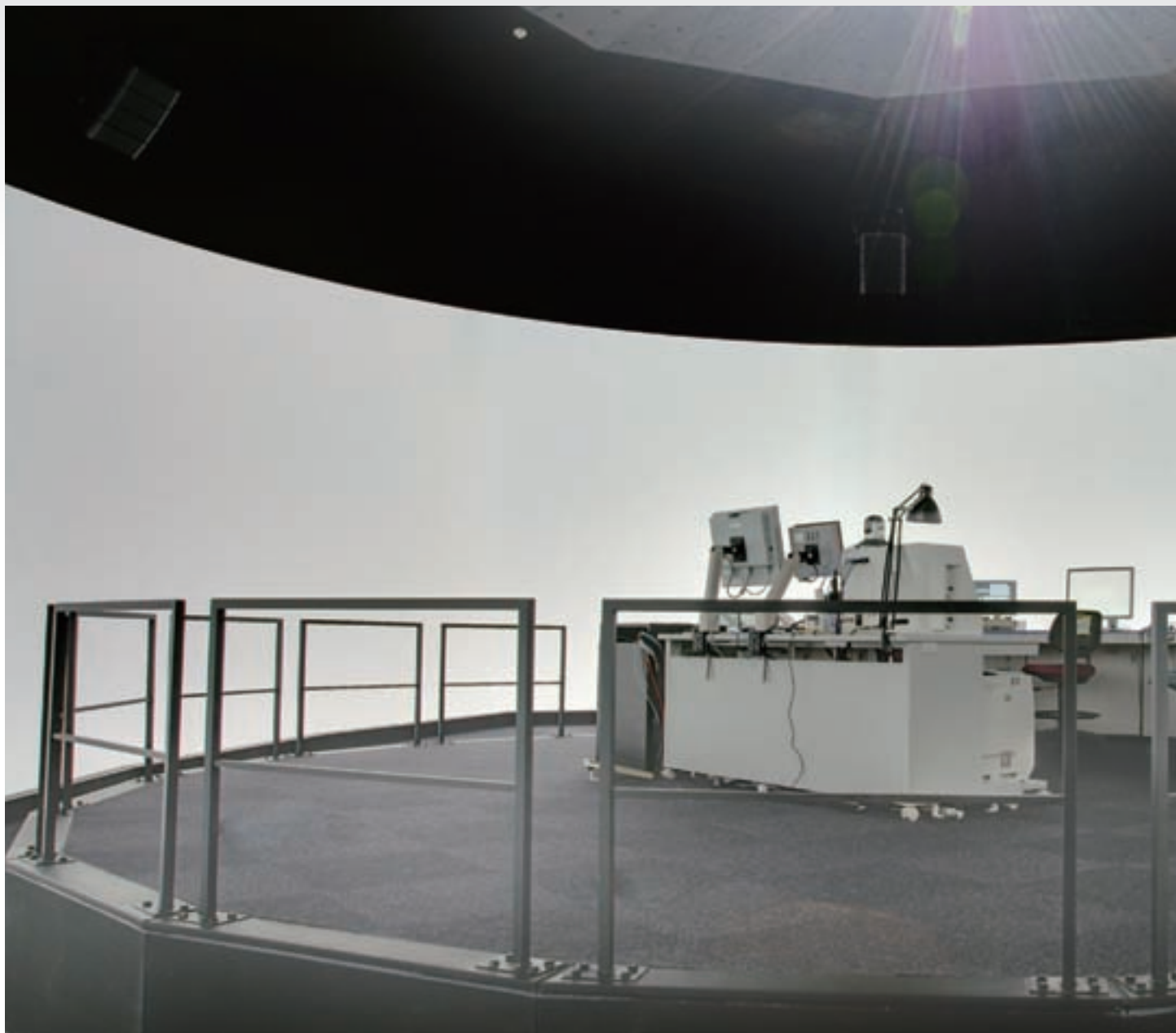
●使わない時は折りたたんで専用ケースに収納できます。



スクリーン生地素材は柔軟性が高いため折りたたんでケースに収納でき、(シルバース生地を除く)、またフレームにはスナップボタン(※)で留めるだけで張り込みが可能です。※スナップボタンは、改良型の「INVISNAPS」を採用し、ボタン周りの破損が大幅に減少しました。

VR（バーチャルリアリティ）・シミュレーション

コンピュータで創った仮想現実空間（VR）を視覚化し、疑似体験のできるシミュレーションは、教育・訓練・アミューズメント等のさまざまな分野で活用されています。



航空保安大学校 航空管制シミュレーター(大阪府泉佐野市りんくうタウン)

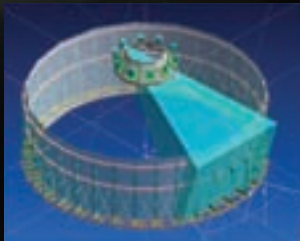
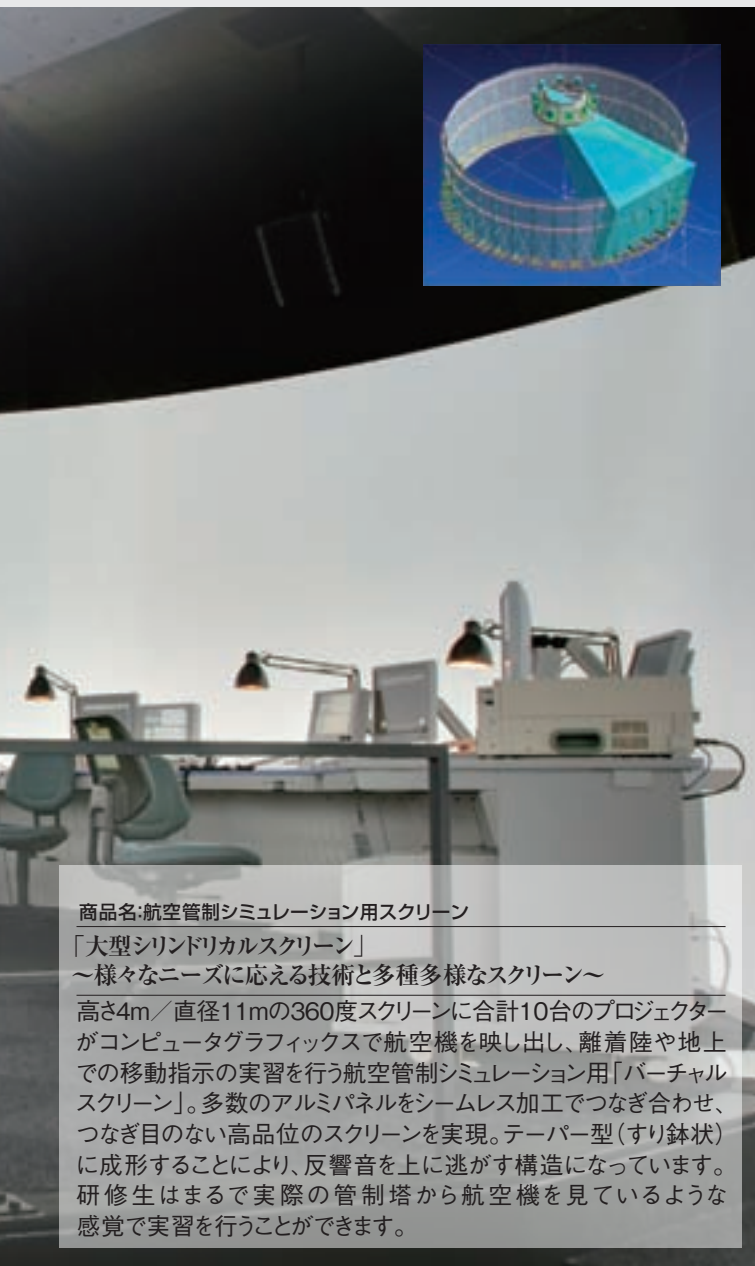
テーマ課題

航空管制訓練用に直径11mの全方位型360度スクリーンと半径5.5mのシリンダー型180度スクリーンを製作。360度スクリーンは、中の音の反響を減らすため、スクリーンをすり鉢状に設計しました。

- 航空保安大学校は、空の安全を支える航空保安業務のスペシャリストを養成する機関です。
- 360度見渡せるスクリーンにコンピューターグラフィックス(CG)で空港滑走路の様子や離着陸機を再現。大型模型で管制訓練してきた旧校舎より現実に即した訓練が可能となりました。

VR・シミュレーションの導入事例

鉄道博物館 D51シミュレータ(埼玉県さいたま市)



詳細ページ → P57

2007年10月に埼玉県さいたま市にオープンした「鉄道博物館」にも導入。D51シミュレータは、ここで人気を博している蒸気機関車の運転シミュレータで運転席から見える進行風景を映写するスクリーンに、150インチのリアソフト/パネルスクリーンが使用されています。

セガ東京ジョイポリス ワイルドジャングル・ブラザーズ(東京都港区)



©SEGA 2000.2006



©SEGA 2000.2006

未開のジャングルをオフロードカーで激走するスリル満点のアトラクション。ここで使用されているのが、シンドリカルスクリーン(180°/R4000)です。観客は映像に完全に包まれ、まさにジャングルを探検しているという没入感を体験できます。

海洋研究開発機構 横浜研究所
地球情報館 半球スクリーン(神奈川県横浜市)



特注の「ドーム型リアスクリーン」が採用されています。地球のおよそ420万分の1にあたる直径3mの半球型リアスクリーンで、海水表面温度の変化や海底の様子、1年間の雲の動きなどシミュレートした映像がドーム内部から投影されます。

商品名:航空管制シミュレーション用スクリーン

「大型シンドリカルスクリーン」

～様々なニーズに応える技術と多種多様なスクリーン～

高さ4m/直径11mの360度スクリーンに合計10台のプロジェクターがコンピュータグラフィックスで航空機を映し出し、離着陸や地上での移動指示の実習を行う航空管制シミュレーション用「バーチャルスクリーン」。多数のアルミパネルをシームレス加工でつなぎ合わせ、つなぎ目のない高品位のスクリーンを実現。テーパー型(すり鉢状)に成形することにより、反響音を上に逃がす構造になっています。研修生はまるで実際の管制塔から航空機を見ているような感覚で実習を行うことができます。